

# **JP1 Oracle Enterprise Manager 通知連携設定手順書**

Creation Date:	Apr 18th, 2011
Last Update:	Apr 18th, 2011
Version:	1.0

---

## Document Control

---

### Author

Xiaofen Wang (Oracle Corporation Japan)

---

### Change Logs

Date	Author	Version	Change Log
Apr. 18 2011	Xiaofen Wang	1.0	Published

---

### Reviewers

Hajime Obata (Oracle Corporation Japan)

---

### Approvals

<Approver 1> \_\_\_\_\_

<Approver 2> \_\_\_\_\_

---

### Distribution

Copy No.	Name	Location
----------	------	----------

## 目次

Document Control .....	2
● Author .....	2
● Change Logs .....	2
● Reviewers.....	2
● Approvals.....	2
● Distribution .....	2
目次.....	3
0. はじめに.....	4
● 通知連携の概要.....	4
● 通知連携の構成.....	4
● 前提.....	5
● JP1 について .....	5
● Oracle Enterprise Manager について .....	6
1.JP1 の導入.....	7
● JP1 のインストール .....	7
2. Oracle Enterprise Manager の導入.....	8
● Oracle Enterprise Manager のインストール .....	8
3. 連携機能の設定.....	9
● シェルスクリプトの作成.....	9
● 通知メソッドの設定 .....	10
4. 通知の設定 .....	13
● しきい値の設定.....	13
● 通知ルールの設定 .....	14
参考資料 .....	18
● JP1 のイベント登録コマンドの使用法 .....	18
● シェルスクリプト作成時のポイント・注意事項.....	18
● JP1 のイベントガイド情報の使用法 .....	20

## 0. はじめに

当ドキュメントでは、JP1 と Oracle Enterprise Manager（以下 OEM）の通知連携の設定方法について解説します。

### 通知連携の概要

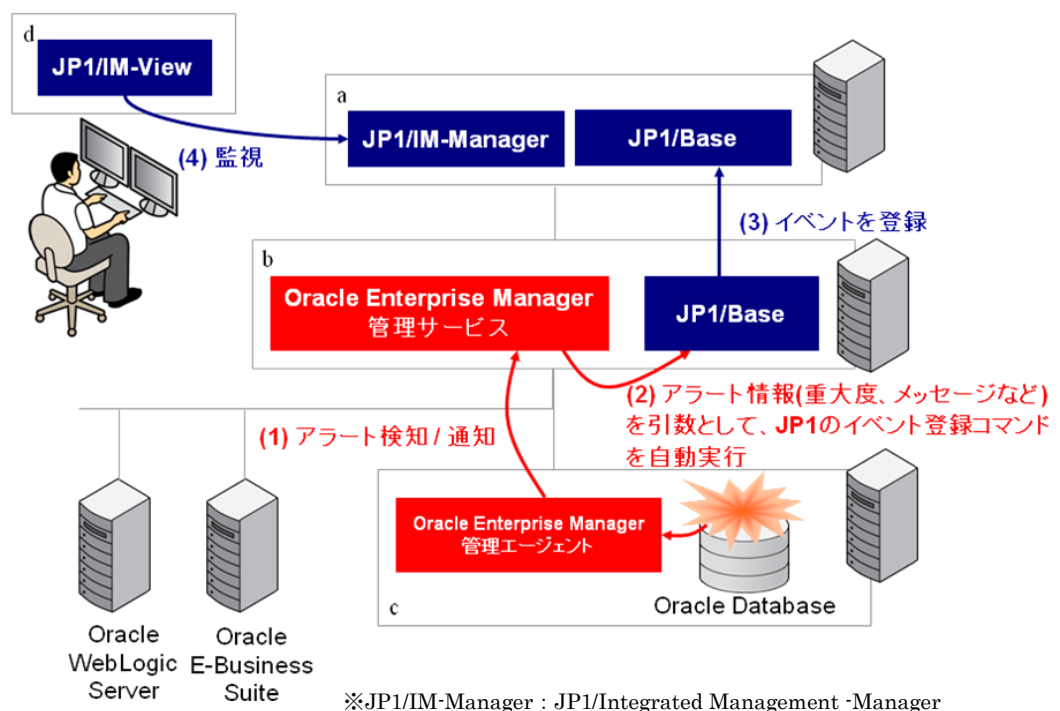
本通知連携では、OEM がアラートを検知した際に、アラート情報をもとにして JP1 に自動的にイベントを登録します。これにより、OEM による詳細な監視の結果を JP1 で一元的に管理することができるようになります。

### 通知連携の構成

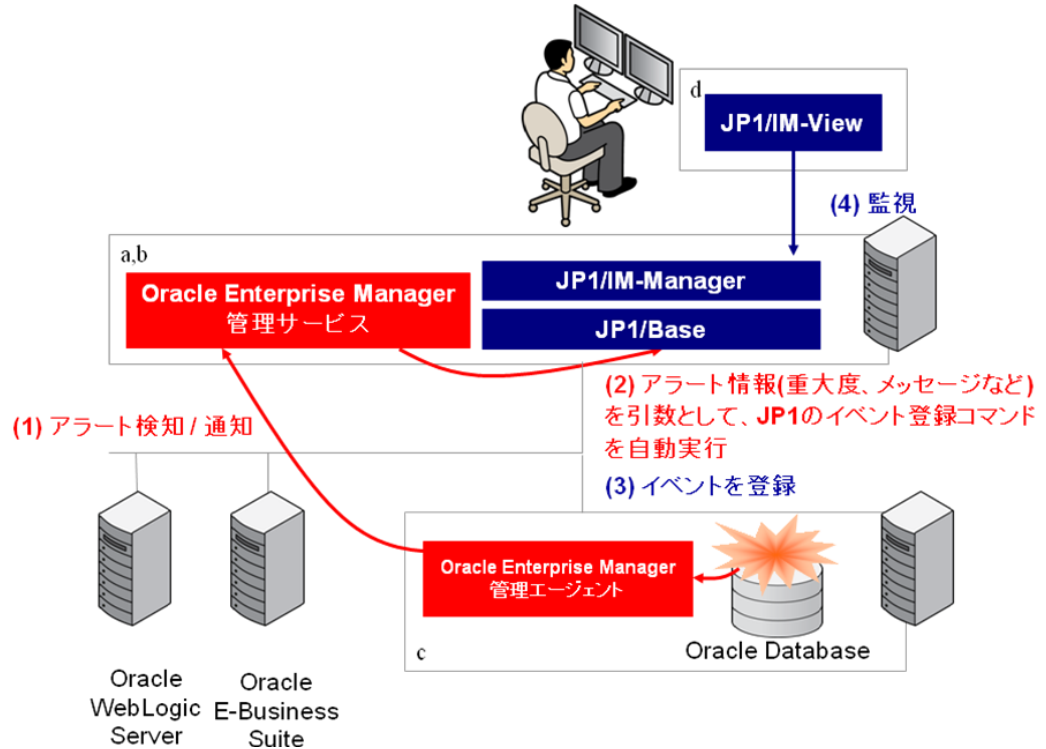
本通知連携では、OEM が検知したアラートの内容を元に JP1 のイベントを自動作成します。

OEM は、監視対象でアラートが発生した際に、任意の OS コマンドを実行して通知を行う機能を持っています。この機能を使用して、アラート発生時に JP1 のイベント登録コマンドを自動実行するよう構成します。

また、OEM は OS コマンドを実行する際に環境変数内にアラートに関するさまざまな情報を格納しています（例：\$HOST（アラート発生元のサーバー名））。これを使用して、JP1 のイベント登録コマンドにアラート重大度やアラートメッセージなどを渡します。



本連携の最小構成では、下図のように JP1/Integrated Management（以下 JP1/IM）と Oracle Enterprise Manager 管理サービスを同じサーバーにインストールする構成をとることも可能です。



## 前提

本手順書は下記の製品およびプラットフォームを前提としています。

- Red Hat Enterprise Linux Server release 5.4 にインストールされた JP1/IM-Manager (09-10)、および JP1/Base (09-10)
- Red Hat Enterprise Linux Server release 5.4 にインストールされた JP1/Base (09-10)、Oracle Enterprise Manager 11g Grid Control Release 1 (11.1.0.1)
- Red Hat Enterprise Linux Server release 5.4 にインストールされた Oracle Database 11g Release 2 Enterprise Edition (11.2.0.2)、および Oracle Enterprise Manager 11g Grid Control Management Agent (11.1.0.1)
- Microsoft Windows XP Professional Version2002 にインストールされた JP1/IM-View (09-10)

それぞれの製品が対応している全てのプラットフォームについては、各製品のマニュアル等を参照して下さい。

## JP1 について

ビジネスにおける IT システムの役割が高まるなか、IT システムの運用で

は、さまざまなリスクを伴います。リスクを回避するには、システム運用管理ソフトウェアの導入がカギとなります。今やビジネスは、IT システムなくして動きません。システム障害による IT システムの停止は、ビジネスの停止につながります。

また、IT システムは日々高度化、複雑化しています。もはや人手による対応では、運用コストが増すばかりです。さらに、ウイルス感染や情報漏えいのリスクは高まる一方です。万一、加害者になって社会的信用が失墜してしまったら、ビジネスチャンスの損失は甚大なものになります。

企業のシステムにおけるこれらのリスクなどを回避し、問題解決に役立つ機能を豊富に取りそろえ、安定した IT システム運用を実現する統合システム運用管理製品、それが JP1 なのです。

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>

## Oracle Enterprise Manager について

Oracle Enterprise Manager は、ビジネス視点での IT システム管理によりサービス品質の向上と IT 運用コストの最小化を支援する、オラクル純正の管理ソフトウェアです。これを実現するのは、ビジネス視点でのビューとアプリケーションからディスクに至る一元管理との融合、そして開発からテスト・運用にわたって提供される管理テクノロジー群であり、オラクルのパッケージ・アプリケーション、Oracle Fusion Middleware、Oracle Database および Oracle VM などの管理において特に強みを発揮します。

<http://www.oracle.com/jp/products/enterprise-manager/index.html>

## 1.JP1 の導入

JP1 をインストールします。

### JP1 のインストール

JP1/Base、JP1/IM-Manager および JP1/IM-View をインストールします。JP1/Base は OEM をインストールするサーバーにもインストールします。

インストールの詳細については、「製品マニュアル」を参照してください。

統合システム運用管理 JP1: マニュアル

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/manual/index.html>

## 2. Oracle Enterprise Manager の導入

OEM をインストールし、監視ターゲットを検出・登録します。

### Oracle Enterprise Manager のインストール

OEM の管理サービスと管理エージェントをインストールします。管理サービスは「1.JP1 の導入」で JP1/Base をインストールしたサーバーに、管理エージェントは OEM の監視対象（本手順書の場合は Oracle Database 11g Release 2 Enterprise Edition (11.2.0.2) がインストールされているサーバーにインストールします。

Oracle Enterprise Manager 11g Grid Control Release 1 (11.1.0.1) のインストールの手順については、「Oracle Enterprise Manager Grid Control 基本インストール・ガイド 11g リリース 1 (11.1.0.1.0)」を参照してください。

[http://download.oracle.com/docs/cd/E17559\\_01/install.111/b61019/toc.htm](http://download.oracle.com/docs/cd/E17559_01/install.111/b61019/toc.htm)

### 3. 連携機能の設定

OEM がアラートを検知した際に、JP1 のイベント登録コマンドが自動実行されるように設定します。

このとき、OEM は JP1 のイベント登録コマンドを直接実行せず、シェルスクリプト（あるいはバッチファイル）を実行します。ファイル内で OEM のアラート情報を JP1 のイベント登録コマンドの引数に渡したうえでイベント登録コマンドを実行するように記述します。

#### シェルスクリプトの作成

OEM がアラート検知時に自動実行するシェルスクリプトを作成します。以下に、シェルスクリプトのサンプルを記載します。なお、下記シェルスクリプトは、以下に示す Oracle Technology Network サイト内、Oracle Enterprise Manager 製品ページの技術情報ページでも入手できます。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/oem/grid-control/techinfo-093928-ja.html>

sample.sh (サンプル)

```
#!/bin/bash

# JP1 のイベント登録コマンド
main()
{jevsend -i 999 -m "$JP1_MESSAGE" -e SEVERITY="$JP1_SEVERITY" -e
HOST="$JP1_HOST" exit 0
}
# PATH 環境変数のセット
export PATH=/opt/jplbase/bin:$PATH

# アラート情報の受け渡し
# $SEVERITY, $HOST, $MESSAGE, $TARGET_TYPE はいずれも
# アラート内容に応じて自動的にセットされる
export EM_SEVERITY=$SEVERITY
export EM_HOST=$HOST
# アラートメッセージに含まれる"を'に置換
export EM_MESSAGE=`echo $MESSAGE |sed -e "s/¥"/¥'/g"`
export EM_TARGET_TYPE=$TARGET_TYPE

# 通知テスト時に使用するダミーのアラート情報
if [ -z $SEVERITY ]
then
  export EM_SEVERITY=警告
fi
if [ -z $HOST ]
then
  export EM_HOST=サーバー名
fi
if [ -z $TARGET_TYPE ]
then
```

```
export EM_TARGET_TYPE=ターゲットタイプ
fi

# JP1 のイベント登録コマンドに渡す引数の作成
export JP1_HOST=$EM_HOST
export JP1_MESSAGE=OEM_"$EM_HOST"_"$EM_TARGET_TYPE"_"$EM_MESSAGE"

# 重大度情報の変換

if [ $EM_SEVERITY = "警告" ]
then
    export JP1_SEVERITY=Warning
elif [ $EM_SEVERITY = "クリティカル" ]
then
    export JP1_SEVERITY=Critical
elif [ $EM_SEVERITY = "クリア" ]
then
    export JP1_SEVERITY=Information
elif [ $EM_SEVERITY = "メトリックエラーの開始" ]
then
    export JP1_SEVERITY=Error
elif [ $EM_SEVERITY = "メトリックエラーのクリア" ]
then
    export JP1_SEVERITY=Information
else
    export JP1_SEVERITY=Information
fi

main
```

本サンプルを使用する際は、9 行目（以下に抜粋）を環境に合わせて書き換え、JP1/Base インストール先フォルダ内の bin ディレクトリを PATH 環境変数に含めません。

sample.sh 9 行目

```
export PATH=/opt/jplbase/bin:$PATH
```

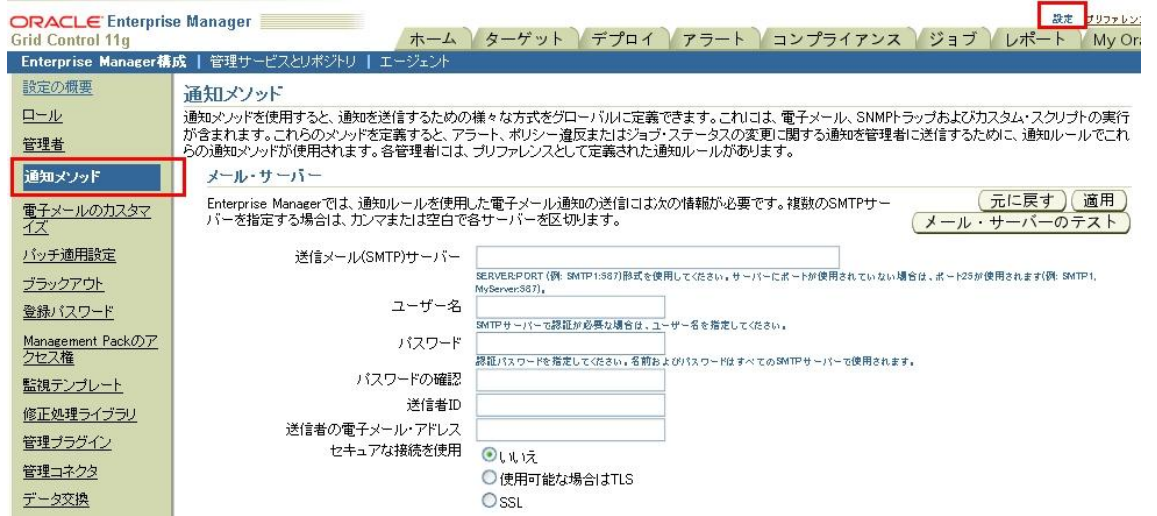
また、本スクリプトは「2.Oracle Enterprise Manager の導入」で OEM 管理サービス、および JP1/Base をインストールしたサーバーに配置し、OEM インストールユーザが実行できるように権限を付与しておく必要があります。

なお、シェルスクリプトを作成する際のその他のポイントや注意事項については、末尾の参考資料を参照してください。

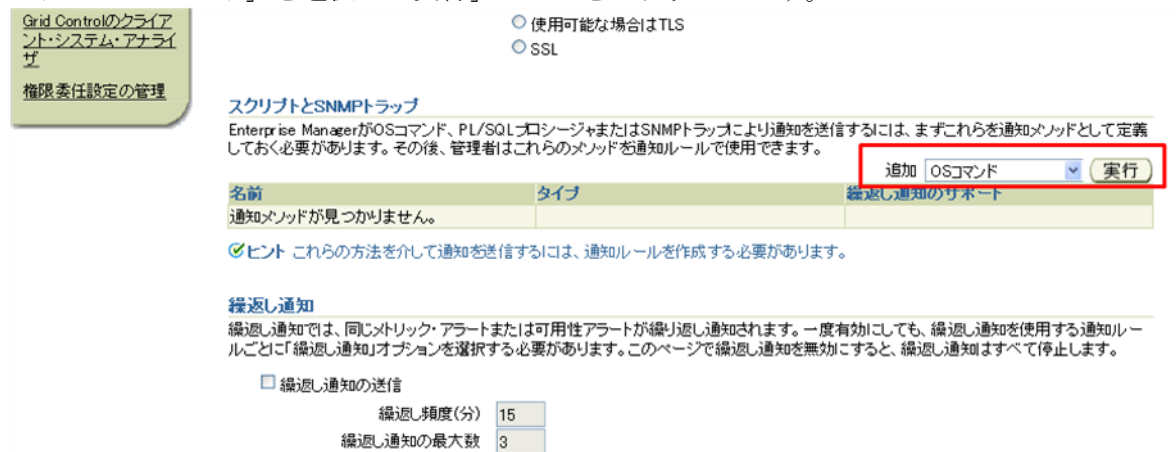
## 通知メソッドの設定

OEM がアラートを検知した際の通知方法として前項で作成したシェルスクリプトを実行できるように、通知メソッドを構成します。

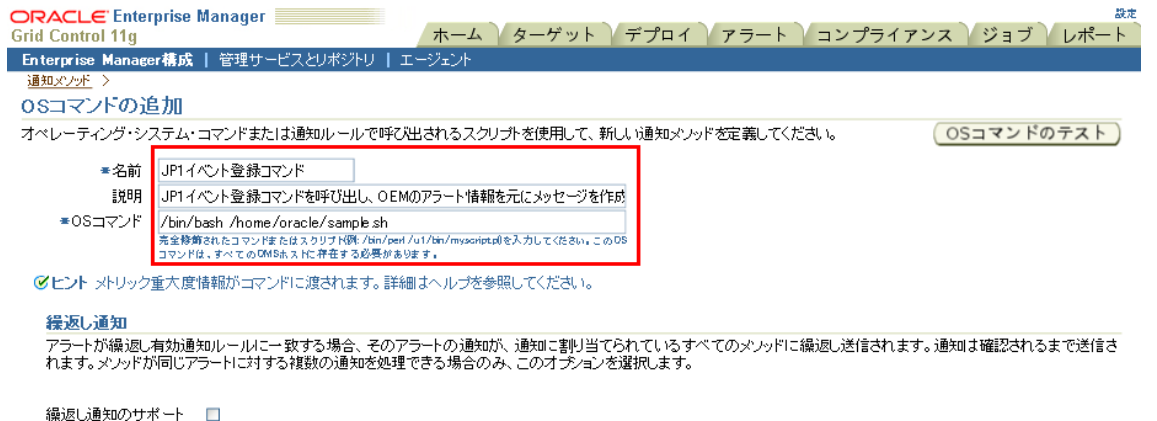
OEM にスーパー管理者ユーザーでログインし、「設定」、「通知メソッド」の順にクリックします。



「スクリプトと SNMP トラップ」セクションで「追加」ドロップダウンメニューより「OS コマンド」を選択し「実行」ボタンをクリックします。

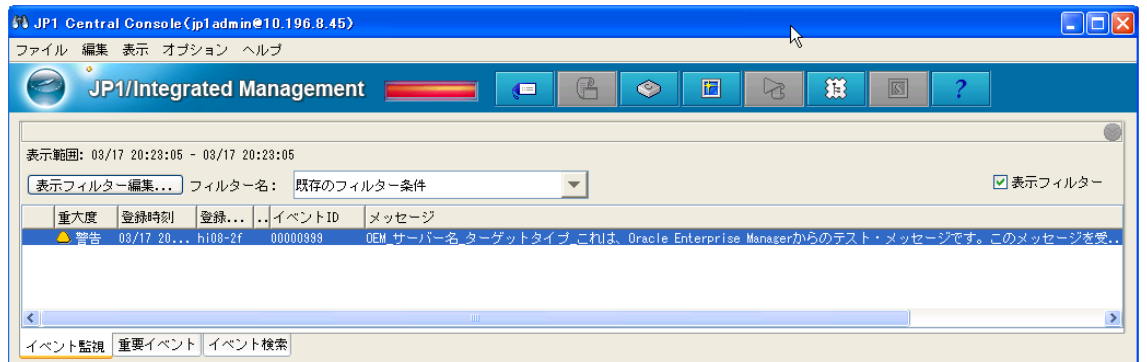


通知メソッドに任意の名前を設定し、この通知メソッドについての説明を記入し（任意）、OS コマンドとして前項で作成したシェルスクリプトをフルパスで指定します。



「OS コマンドのテスト」ボタンをクリックすることで、入力した OS コマンド

をテスト実行することができます。このときの JP1 側の出力例を以下に示します。



設定が終了したら、「OK」 ボタンをクリックすると通知メソッドが作成されます。

#### スクリプトとSNMPトラップ

Enterprise ManagerがOSコマンド、PL/SQLプロシージャまたはSNMPトラップより通知を送信するには、まずこれらを通知メソッドとして定義しておく必要があります。その後、管理者はこれらのメソッドを通知ルールで使用できます。

追加 OSコマンド 実行

表示 編集 削除

選択	名前	タイプ	繰り返し通知のサポート
<input checked="" type="radio"/>	JP1 イベント登録コマンド	OSコマンド	いいえ

ヒント これらの方法を介して通知を送信するには、通知ルールを作成する必要があります。

#### 繰り返し通知

繰り返し通知では、同じメトリック・アラートまたは可用性アラートが繰り返し通知されます。一度有効にしても、繰り返し通知を使用する通知ルールごとに「繰り返し通知」オプションを選択する必要があります。このページで繰り返し通知を無効にすると、繰り返し通知はすべて停止します。

繰り返し通知の送信

繰り返し頻度(分)	15
繰り返し通知の最大数	3

以上で連携機能の設定は終了です。

## 4. 通知の設定

OEM で異常検知/アラート通知させたい監視項目を設定し、アラート発生時に「4. 連携機能の設定」で設定した通知メソッドを実行するように設定します。

### しきい値の設定

OEM で異常検知させたい監視項目を設定します。ここでは「orcl」というデータベース・インスタンスの TS 表領域の使用率が 75%になったら警告アラートを、90%になったらクリティカル・アラートを発生させるよう設定します。

**ヒント：**複数のターゲットに共通のしきい値を設定する場合は、監視テンプレートを使用して手順を簡略化することができます。設定方法に関しましては、「設定」ページの「監視テンプレート」内のオンライン・ヘルプをご参照ください。

OEM にログインし、「ターゲット」タブ、「データベース」サブタブ、「orcl」インスタンスの順にクリックします。

ORACLE Enterprise Manager  
Grid Control 11g

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ レポート

ホスト データベース ミドルウェア Webアプリケーション グループ サービス すべてのターゲット

データベース

表示  Oracle負荷マップ  検索リスト

検索

選択	名前	ステータス	アラート	ポリシー違反	コンプライアンス・スコア(%)	バージョン	セッション数: CPU	セッション数: I/O	セッション数: その他	インスタンス
<input type="radio"/>	emrepgriidcenter.jp.oracle.com	↑	1 1	12 35 1	94	11.2.0.2.0	.01	0 ✓	.01 ✓	
<input checked="" type="radio"/>	orcl	↑	0 1	14 56 3	93	11.2.0.2.0	0	0 ✓	0 ✓	

✔ ヒント このページで使用するアイコンおよび記号の説明は、次を参照してください: [アイコン・キー](#)

関連リンク

<a href="#">SQLの実行</a>	<a href="#">ディクショナリの同期化</a>	<a href="#">ディクショナリの比較</a>
<a href="#">ディクショナリ・ベースライン</a>	<a href="#">データ・マスキングのフォーマット・ライブラリ</a>	<a href="#">データ・マスキング定義</a>
<a href="#">リカバリ・カタログ</a>	<a href="#">表の列のカスタマイズ</a>	

orcl の管理画面トップの下部にある「関連リンク」から、「メトリックとポリシー設定」をクリックします。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager interface for Grid Control 11g. The main navigation bar includes Home, Target, Deploy, Alerts, Compliance, Jobs, and Reports. The current view is for the database instance 'orcl'. The status is 'Moving' (移動中). Key metrics shown include Host CPU (0.12), Active Sessions (4), and SQL Response Time (95.37%). A 'Stop' button and a 'Blackout' button are visible. Below the main dashboard, there are links for 'Related Links' (関連リンク) such as 'EM's SQL History', 'Alerts', and 'SQL Worksheet'.

TS 表領域の「表領域使用率」の「警告のしきい値」、「クリティカルのしきい値」の欄にそれぞれ 75、90 を記入し「OK」ボタンをクリックします。「収集スケジュール」「編集」欄をクリックすることで、より詳細な設定を行うことができます。

The screenshot shows the 'Metric and Policy Settings' (メトリックとポリシー設定) page. The 'Metric Thresholds' (メトリックしきい値) tab is active. A table lists various metrics with their respective warning and critical thresholds. The 'TS' (Tablespace) row is highlighted with a red border, showing a warning threshold of 75 and a critical threshold of 90.

メトリック	比較演算子	警告のしきい値	クリティカルのしきい値	修正処理	収集スケジュール	編集
Database Vaultポリシー変更数	>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	なし	1時間ごと	
Database Vault構成の問題数 - コマンド・ルール	>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	なし	1時間ごと	
Database Vault構成の問題数 - レルム	>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	なし	1時間ごと	
DBの不整合状態	一致	<input type="text" value="0"/>	*	なし	15分ごと	
表領域使用率(%)						
UNDOTBS1	>=	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	なし	30分ごと	
TS	>=	<input type="text" value="75"/>	<input type="text" value="90"/>	なし	30分ごと	

## 通知ルールの設定

アラートなどの (OEM の) イベントが発生した際に、前章で設定した通知メソッドを自動実行するよう通知ルールを作成します。ここでは「orcl で警告アラート、クリティカル・アラートが発生したり、アラートがクリアされた際に、前章で設定した通知メソッドを実行する」ように設定します。

OEM にログインし、「プリファレンス」、「ルール」、「作成」ボタンの順にクリックします。



通知ルールの名前を入力し、ターゲットとして orcl を選択します。



次に「メトリック」サブタブ、「追加」の順にクリックします。



「表領域使用率 (%)」のチェックボックスにチェックを入れ、対象となる表領域に「TS」を選択します。また「重大度の状態」セクションで「クリティカル」「警告」「クリア」にチェックを入れ、「続行」ボタンをクリックします。

ORACLE Enterprise Manager  
Grid Control 11g

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ レポート My Oracle

プリファレンス  
通知ルールの編集: 表領域アラートをJP1に通知

### メトリックの追加

通知を受信する対象となるメトリックと重大度を選択してください。

メトリック  
検索: 表領域使用率 [実行] [クリア]

すべて選択 | 選択解除

選択	メトリック	オブジェクト
<input checked="" type="checkbox"/>	表領域使用率(%)	<input type="radio"/> すべてのオブジェクト(表領域名) <input checked="" type="radio"/> 選択 TS
<input type="checkbox"/>	表領域使用率(%(ディクショナリ管理))	<input checked="" type="radio"/> すべてのオブジェクト(表領域名) <input type="radio"/> 選択

重大度の状態  
通知を受信する対象となる重大度の状態を選択してください。

クリティカル  警告  クリア

通知の対象となるイベントが指定されました。

ORACLE Enterprise Manager  
Grid Control 11g

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ レポート My Oracle S

プリファレンス  
通知ルールの編集: 表領域アラートをJP1に通知

一般 可用性 **メトリック** ポリシー ジョブ アクション

(削除) | (追加)

すべて選択 | 選択解除

選択	メトリック	オブジェクト	重大度の状態	クリティカルの場合	修正処理の状態	警告の場合	編集
<input type="checkbox"/>	表領域使用率(%)	TS	クリティカル, 警告, クリア				

追加のアラート条件  
一定の時間オープンであり、確認されていないアラートルールを適用するための追加条件を選択します。

Additional alert selection criteria is not set. [Add]

ヒント: メトリックを複数指定することも可能です。その場合、指定したいずれかのメトリックで指定した重大度のアラートが発生した場合にアクション(後述)が実行されます。

続いて、「アクション」サブタブをクリックし、前章で作成した JP1 イベント登録用の通知メソッドを選択します。

ORACLE Enterprise Manager  
Grid Control 11g

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ

プリファレンス  
通知ルールの編集: 表領域アラートをJP1に通知

一般 可用性 メトリック ポリシー ジョブ **アクション**

### 電子メール通知

電子メールを送信  
電子メールアドレスが見つかりませんでした。電子メールは送信されません。後で「一般」ページで電子メールアドレスを追加して、電子メールを送信するこのルールを編集できます。

### 拡張通知メソッド

名前	タイプ	説明	繰り返し通知のサポート	ルールへのメソッドの割当て
JP1 イベント登録コマンド	OSコマンド	JP1 イベント登録コマンドを呼び出し、OEMのアラート情報を元にメッセージを作成します。	いいえ	<input checked="" type="checkbox"/>

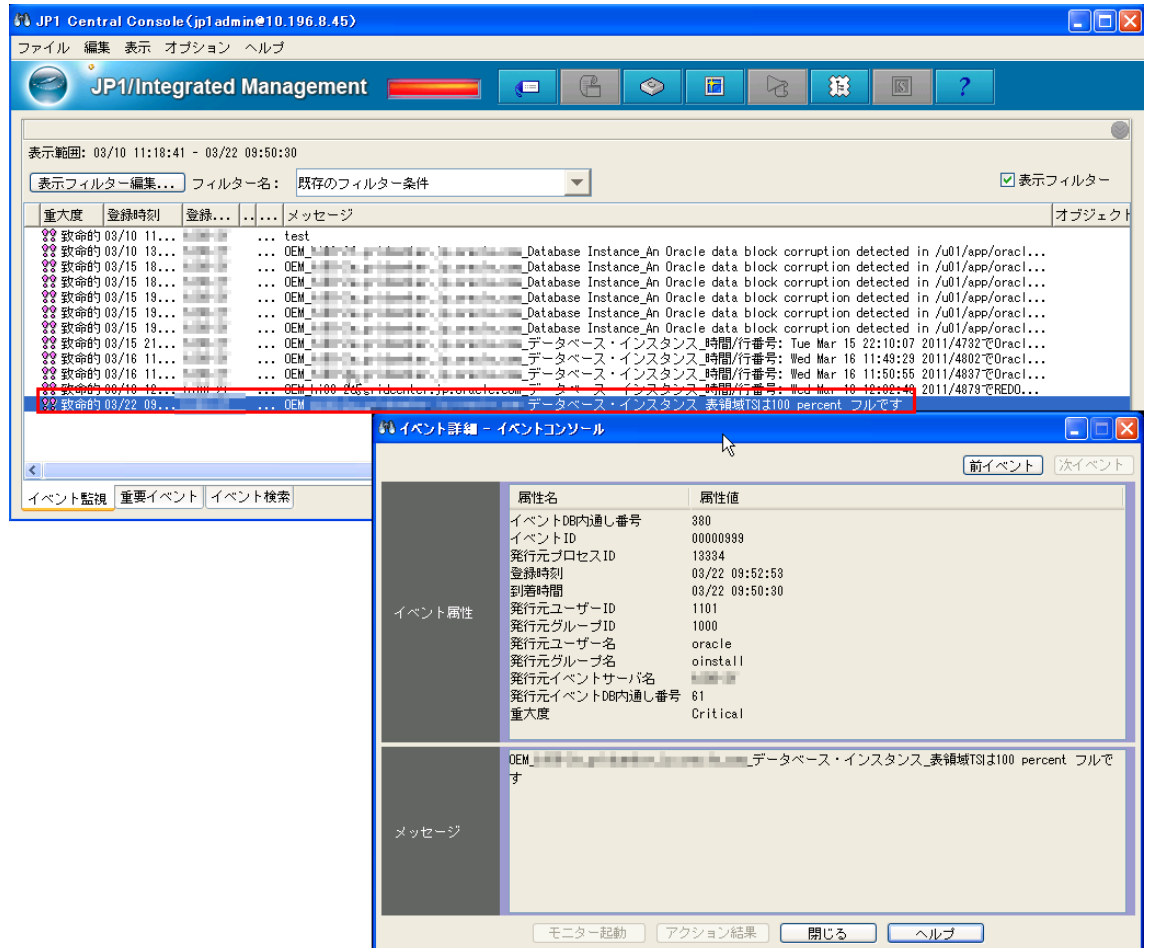
### 繰り返し通知

このルールで指定するすべてのメトリック・アラートと可用性の状態(停止中のターゲット、「エージェント使用不可」、「メトリックエラー検出」)について、通知を繰り返し送信できます。繰り返し通知が停止するのは、アラートが確認されるかクリアされたとき、または繰り返し通知の最大数に達したときだけです。

繰り返し通知の送信

設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。

実際にデータベース・インスタンス orcl の TS 表領域使用率が 90%を超過し、クリティカル・アラートが発生した際の、JP1/IM-View の画面例を以下に示します。



ヒント：通知ルールの設定は、ターゲットタイプごと、ターゲットごと、監視項目ごとなどに個別に行うことができます (例: データベース・インスタンス用と Oracle WebLogic Sever 用、データベース・インスタンス 1 用とデータベース・インスタンス 2 用、アーカイブ領域使用率用とバッファキャッシュヒット率用など)。それぞれのルールで、通知対象となる監視項目や重大度 (警告、クリティカル、クリア) を個別に設定することができます。

以上で通知の設定は終了です。

## 参考資料

### JP1 のイベント登録コマンドの使用方法

前述したシェルスクリプト内の `jevsend` コマンドの使用方法の詳細に関しましては、下記 URL をご参照ください。

オンラインマニュアル JP1 Version 9 統合管理

JP1 管理基盤 : JP1/Base

JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド

(資料番号 3020-3-R71-20)

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/manual/common/jp1/index.html>

### シェルスクリプト作成時のポイント・注意事項

#### 環境変数を使用したアラート情報の受け渡し

シェルスクリプト内では、JP1 イベント登録コマンド (`jevsend`) を実行します。その際、OEM のアラート情報の中から JP1/IM のイベント登録に必要なものを引数に渡します。

OEM のアラート情報は、OS コマンド (本シェルスクリプト) を実行する際に自動で環境変数に格納されています (例: `$HOST`→アラート発生元のホスト名、`$MESSAGE`→アラートメッセージ、など)。

次の例では、この中から `$HOST`、`$SEVERITY` (アラートの重大度)、`$MESSAGE` を JP1 のイベント登録コマンドの引数に渡しています。

例 :

```
jevsend -i 999 -m "$MESSAGE" -e SEVERITY="$SEVERTY" -e HOST="$HOST"
```

#### sed コマンドを使用した「”」記号の置換あるいは削除

JP1 にイベントを登録する際、メッセージ内容となるテキストに「”」が入っていると、メッセージの終了と認識されてしまうため、事前に他の記号に置換します。次の例では、「”」を「'」に置換しております。

例 :

```
export EM_MESSAGE=`echo $MESSAGE |sed -e "s/"/'/g`
```

#### PATH 環境変数の設定

JP1 のイベント登録コマンド (`jevsend`) を実行する際は、PATH 環境変数に JP1 インストール先である `/opt/jp1base` フォルダ内にある `bin` ディレクトリが設定されている必要があります。シェルスクリプト内であらかじめ PATH 環境変数を設定しておきます。

例：

```
export PATH=/opt/jplbase/bin:$PATH
```

### 重大度情報の変換

環境変数に格納されるアラート情報のうち重大度（\$SEVERITY）については、OEM の管理サービスが日本語で起動している場合、「警告」「クリティカル」など日本語で格納されるため、シェルスクリプト内であらかじめ JP1 用の重大度に変換を行います（例：「警告」（OEM）→「Warning」（JP1）など）

例：

```
if [ $EM_SEVERITY = "警告" ]
then
  export JP1_SEVERITY=Warning
```

OEM の管理サービスを英語で起動している場合は、重大度も英語で出力されるため、それに合わせて記述します

例：

```
if [ $EM_SEVERITY = "Warning" ]
then
  export JP1_SEVERITY=Warning
```

### メッセージの記述方法

JP1/IM-View 上に表示させるメッセージ は、引数“-m” に渡す値の編集により、カスタマイズすることができます。例えば、以下の例では、メッセージの先頭に OEM から登録されたイベントを示す「OEM」と、ホスト名を付けています。

ホスト名は\$HOST 環境変数に格納されています。

例：

```
export JP1_MESSAGE= OEM_"$HOST_"$MESSAGE"
```

### シェルスクリプトのカスタマイズ

OEM が OS コマンド（シェルスクリプト）を実行する際には、ほかにもさまざまなアラート情報が環境変数に格納されており、要件に応じて JP1 にさまざまな情報を送ることができます（\$METRIC\_VALUE→しきい値を超えたときの監視項目の値、\$TIMESTAMP→発生時刻、など）。

受け渡すことのできる環境変数の詳細については以下を参照してください。

Oracle Enterprise Manager Administration 11g Release 1 （11.1.0.1）

Passing Alert and Policy Violation Information to an OS Command or Script

[http://download.oracle.com/docs/cd/E17559\\_01/em.111/e16790/notification.htm#BABEACDD](http://download.oracle.com/docs/cd/E17559_01/em.111/e16790/notification.htm#BABEACDD)

## JP1 のイベントガイド情報の使用方法

イベントガイド情報は、システム監視中に問題が発生したときに、JP1 イベントの [イベント詳細] 画面に表示する情報です。イベントガイド情報として、問題の調査事例、対策事例などを表示することで、システム管理者の負担を軽減できます。また、問題対策での実績や対処記録などを、運用ノウハウとして蓄積できます。イベントガイド情報として表示する内容は、JP1/IM - Manager のホストにあるイベントガイド情報ファイルに設定します。

イベントガイド情報の使用方法の詳細に関しましては、下記 URL をご参照ください。

オンラインマニュアル JP1 Version 9 統合管理

統合コンソール : JP1/Integrated Management

JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド

(資料番号 : 3020-3-R76-40)

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/manual/common/jp1/index.html>

### イベントガイド情報ファイルの登録

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt) のサンプルを、以下に示します。この例では、OEM から発行される JP1 イベントのイベント ID 「00000999」をキーとし、イベントガイド情報を表示しています。

例 :

```
DESC_VERSION=1

#ORACL EM 異常検知イベントに対するガイド
[EV_GUIDE_1]
EV_COMP=B.IDBASE:00000999
EV_FILE=
[END]
```

### イベントガイドメッセージファイルの登録

上記のイベントガイド情報ファイルに加え、JP1/IM-View 上に表示されるイベントガイドメッセージを定義するイベントガイドメッセージファイル (EV\_GUIDE\_1.txt) のサンプルを、以下に示します。

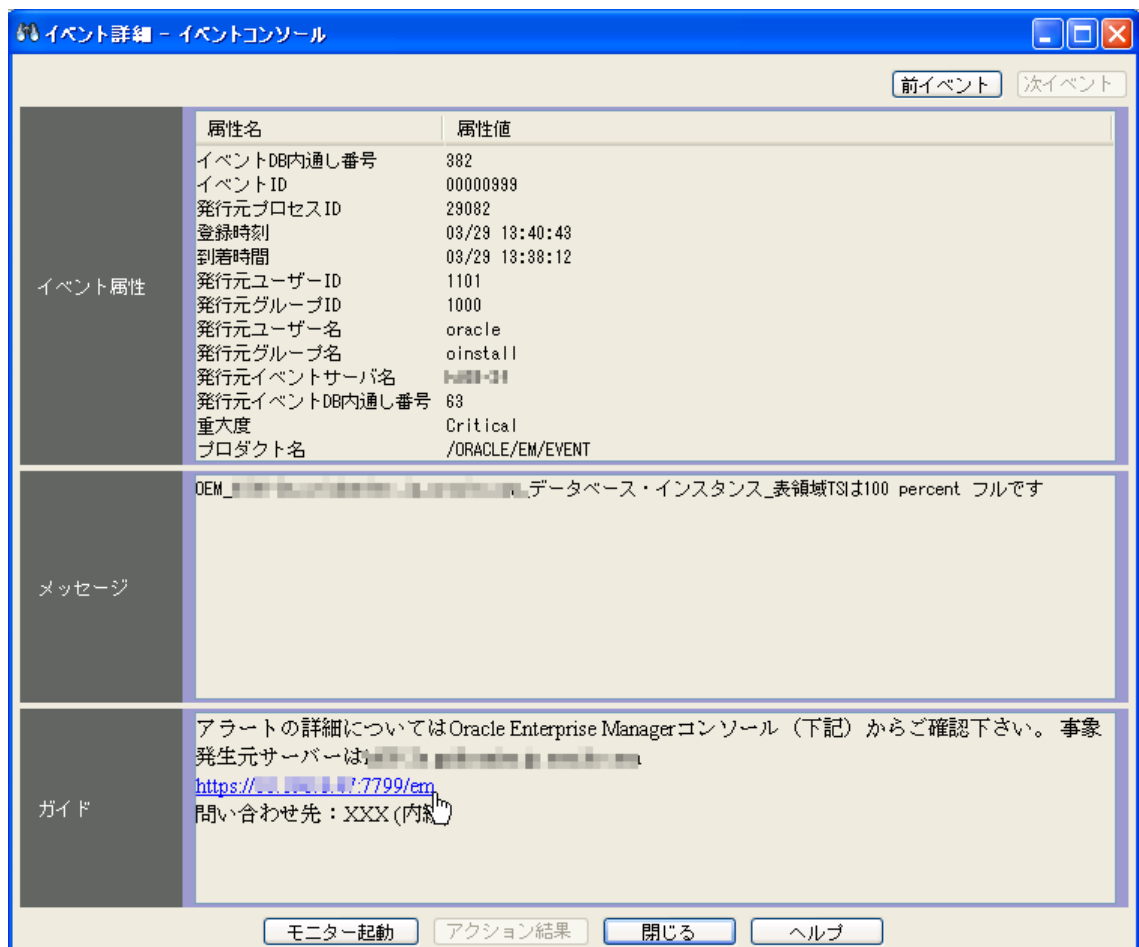
この中では、OEM から発行される JP1 イベントの拡張属性情報から、\$HOST を引き継ぎ、事象発生元サーバーとしてイベントガイドメッセージ上に表示しています。

また、斜体部分「OEM 管理コンソールの URL」は、それぞれの環境に合わせ、適切な URL に変更してご利用ください。

例：

```
<HTML>
<HEAD>
<BODY>
アラートの詳細については Oracle Enterprise Manager コンソール（下記）からご確認下さい。事象発生元サーバーは、$E.HOST。
<BR>
<A HREF="OEM 管理コンソールの URL">OEM 管理コンソールの URL</A>
<BR>
問い合わせ先：XXX（内線）
</BODY>
</HEAD>
</HTML>
```

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)、およびイベントガイドメッセージファイル (EV\_GUIDE\_1.txt) を定義し、OEM から発行された JP1 イベントの詳細を JP1/IM-View 上で表示した場合の画面例を、以下に示します。



**Copyright© 2011, Oracle. All rights reserved.**

このドキュメントは単に情報として提供され、内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントに誤りが無いことの保証や、商品性又は特定目的への適合性の黙示的な保証や条件を含め明示的又は黙示的な保証や条件は一切無いものとします。日本オラクル株式会社は、このドキュメントについていかなる責任も負いません。また、このドキュメントによって直接又は間接にいかなる契約上の義務も負うものではありません。このドキュメントを形式、手段(電子的又は機械的)、目的に関係なく、日本オラクル株式会社の書面による事前の承諾なく、複製又は転載することはできません。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。文中の社名、商品名等などは各社の商標または登録商標である場合があります。